News of The Japanese Weekend School of New York

BIG APPLE

ニューヨーク補習授業校
56 Harrison St. Suite204
New Rochelle, NY 10801 U.S.A.
Tel:(914)636-3770
Fax:(914)636-7476
平成２６年　１月 10日　No. 18
発行責任者：校長　櫻井郁男

日が延びて

4日、W校での会議が終わり「日が延びましたね」と、ある先生がおっしゃりました。確かに冬至前後に慌てて退出した頃に比べ、心にゆとりをもっている自分に気が付きました。春夏秋冬の四季があれば①、日照時間が異なる②のは当然と受け止めますが・・・ここで理科教員の思考が始まりました。四季は地球が太陽を公転する際の公転面に対して、地球の自転軸（地軸）が傾いている③　ことから生じます。そこで北極圏・南極圏では太陽が昇らない季節が生まれ白夜も経験できます。赤道上では年間を通して、昼と夜の時間が等しいことになります。（厳密には複雑な要素が絡みます）


W校　正月飾り

理科に限らず学習の指導法には大きく２通りありますが、自然事象から導く考察は、①②③の順で、教授型授業での説明順は③②①です。中・高等部の生徒は、北回帰線・南回帰線という言葉も確認してください。さらに歳差・章動等、興味が湧いたら調べましょう。

年が明け、東京育ちの私は「昼夜時間の増減」の「差」を強く感じます。これは緯度が関係します。日の出と日没時刻からおおよそですが調べると

12月21日からの１ヶ月間で
東京（中学時代の自宅）は　　23分09秒ほど昼間の時間が延びび、
ニューヨークの住処（すみか）では　　36分44秒の伸びです。　13分25秒の差
（もちろん、昼の時間は東京のほうが長いです）

「日が延びた」という感覚は、緯度が高いところほど強く感じることが、数字でも説明できました。同じように「北国の夏は梅桃桜が一斉に開花し」とか、「短い夏が終わり冬が駆け足でやってくる」という表現もうなずけます。

さて、1月7日、ニューヨーク日本人学校では、凛とした冷気の中、国内以上に厳粛なる卒業式が挙行されました。式を待つ間、近隣の学校が寒さのためクローズになったようだ等、気温に関する話題が続きました。ここで「16度」という気温が話題となりました。私は、摂氏-16度ではないだろう、気温は摂氏氷点下４～５度かな、風によって体感温度はさらに下がるけど…考えつつ、グリニッジまでの駅路を辿（たど）りました。（華氏16度はおおよそ摂氏-8.9度）

寒暖に対する個人の耐性には大きな差があります。かつて勤務していた香港では、摂氏10度以下になると、香港の最高峰には霧氷を見ようと未明から人々が訪れ、一方、街には凍死（凍りませんが）者が出て社会問題化していました。


W校　中・高等部　冬まつり・・6年生を招いて

広大なアメリカ合衆国、気候による風土の違いと、そこで育まれた多様な文化や気質があることでしょう。子供たちには国際理解の切り口として、このことを感じられるような日々も過ごしてほしいものです。